
脱炭素経営セミナー

「オープンフォーラム分科会 脱炭素経営」ご紹介

① 脱炭素経営

CO2排出量の計算や削減案の検討・実践ワークショップを開催

脱炭素経営を基礎から理解し、なぜ企業・団体が脱炭素経営を進める必要があるのかを考えます。そのため、カーボンニュートラルやCO2排出量計算の仕方を具体的に理解します。自分で自社のCO2排出量が計算できるようになります。

受講いただきたい方

- 脱炭素経営を目指したい企業・団体の経営者・管理職・担当者
- カーボンニュートラルについて理解したい方
- CO2排出量計算の仕方を理解したい方
- 大手企業や大手企業と取引をしている取引先を持っている・今後持ちたい企業
- GXリーグや国際認証を取得し企業のイメージを上げたい方
- 企業イメージをアピールし学生の採用を積極的に進めたい方
- SDGs やエシカル経営（消費）、環境問題に関心がある方など

- 事前の知識等は必要ありません。

カーボンニュートラル福井コンソーシアム実践会スケジュール案

	第1回	第2回	第3回
日付	7月25日	9月10日	10月25日
タイトル	エシカル経営とカーボンニュートラル推進入門	カーボンニュートラル実践のためのCO ₂ 算出量計算の仕方を理解する	CO ₂ 算出量削減方法を考える。GXリーグやSBT認証など今後の取組についても考える

脱炭素経営分科会第一回予定内容

	第1回
日付	7月25日
タイトル	エシカル経営とカーボンニュートラル推進入門
主な内容	エシカル経営とはどのようなものなのかの本質やカーボンニュートラルの目的と目指す方向性を理解し、CO ₂ 算出量の計算の仕方の基本を理解します。
アジェンダ案	<ol style="list-style-type: none">① はじめに② エシカル対応とは？③ 気候変動化の現状④ カーボンニュートラルとは⑤ GHG排出量算出のルールの基本⑥ まとめ

GX未対応による企業への売上インパクト

内容見本

グリーン調達



The screenshot shows the Sony website's 'Green Procurement' page. At the top, there is a navigation bar with the Sony logo and various menu items like '事業・製品', 'ソニーグループについて', etc. Below the navigation bar, there is a breadcrumb trail: 'トップ > ソニーについて > 調達活動 > グリーン調達'. The main heading is 'ソニーについて' followed by 'グリーン調達'. A light blue box contains a paragraph: 'ソニーの企業活動は、地球環境が健全であって初めて成り立ち、気候変動対策や資源保全、化学物質の管理など、環境への対応が重要と考えています。この認識のもと、ソニーは環境に配慮した製品やサービスを通じ、持続可能な社会の実現に向けて取り組んでいます。' Below this, there is a section titled 'ソニー製品に使用する原材料・部品の調達'. It contains a paragraph: 'ソニーは、ソニー製品の部品・材料等に含有される物質のうち、地球環境と人体に著しい影響を持つと判断したものを「環境管理物質」と特定し、「部品・材料における環境管理物質 管理規定」を定め、使用禁止や削減を図る化学物質とその用途を明確にしています。これらの基準・規定をサプライヤー様にも遵守して頂くための運用制度として「グリーンパートナー環境品質認定制度」を導入し、グリーンパートナーとして認定されたサプライヤー様からのみ調達を行っています。' At the bottom, there is a note: '使用禁止および削減を図る化学物質とその用途については「部品・材料における環境管理物質管理規定」をご参照下さい。' and a link to the Sony Group HP: 'ソニーグループHPより (https://www.sony.com/ja/SonyInfo/procurementinfo/green.html)'

主要企業4割、脱炭素目標 ソニーは調達先にも要請
日本経済新聞（2021年5月24日）

カーボンゼロを目指して調達先企業に排出削減
目標の設定と実行を求める

これまでの常識

良い物を安く作れば売れる
(伝統と技術“MADE in JAPAN”で勝負)

「地球環境保全および生態系に
対する影響を軽減」が製造に
求められる時代に

これからの常識

エシカル製品でないと
そもそも購買の対象にならない

性能や価格で売る時代の終焉

脱炭素経営分科会第2回予定内容

	第2回
日付	9月10日
タイトル	カーボンニュートラル実践のためのCO ₂ 算出量計算の仕方
主な内容	自社においてどのような分野でどれくらいCO ₂ 算出量が削減できるかを実際に計算してみます。ツールの紹介もします。
	<ol style="list-style-type: none">① はじめに② GHG排出量算出のルール③ 事例紹介④ 【ワーク】試してみよう！（サンプルデータを利用したCO₂排出量計算）⑤ 今後の計算方法⑥ まとめ

CO2排出量削減施策の具体的な中身とは

内容見本

すべてのCO2排出量を把握して実現可能な削減計画を策定し管理する必要がある

STEP1

CO2排出量の**把握**

対象となる事業

(Scope) の理解

CO2排出量算出のScope1・2・3を理解

算出する組織の範囲を定義

組織境界単位、法人単位、敷地単位、排出源単位で組織を定義

これまでのCO2排出量を可視化

定義した組織別にCO2排出量を算出し現状を把握

STEP2

CO2排出量の削減**計画**

基準年度設定

2030年時点のCO2排出量を比較する基準となる年度を設定（原則2013年度）

削減目標を策定

2030年までのCO2排出量削減目標を策定

実行手段を策定

組織別にCO2g排出量削減の実行手段を策定

STEP3

CO2排出量の予実**管理**

管理担当者の選定

組織別にCO2排出量削減目標・計画に対しての進捗を担当者を決めて管理

予実の管理

策定した削減目標を達成するための商品導入などの施策を実施

結果報告書の作成・開示

2025年以降、対象企業は**指定フォーマット**での報告書の提出が必須

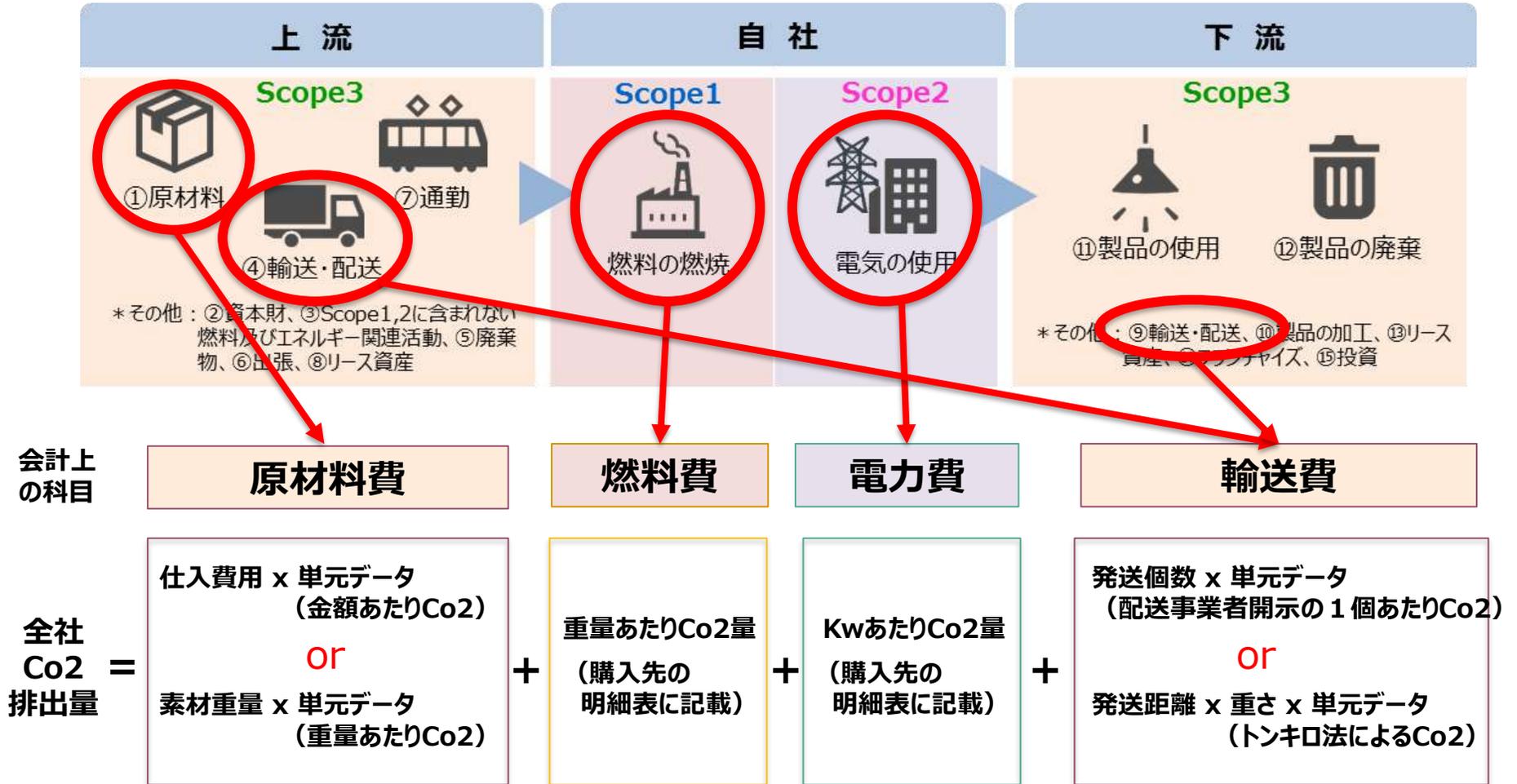
実施概要

CO2排出量算出の準備～計画策定・予実管理・年次報告の対応が必要です

会計データからザックリと算出し、現状を把握する

費用割合が出たら削減に向けてどこの取引を切り替えるべきかわかる

内容見本



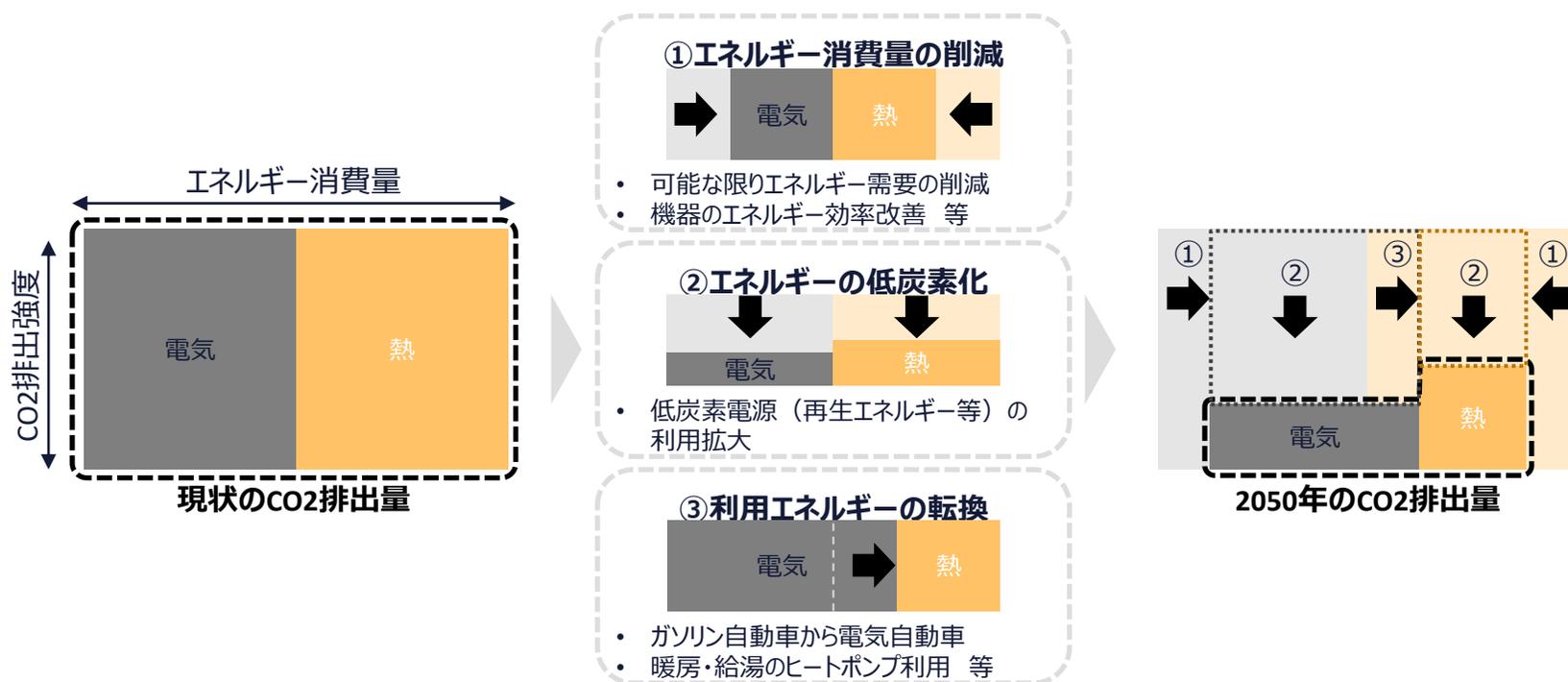
脱炭素経営分科会第3回予定内容

	第3回
日付	10月25日
タイトル	CO ₂ 算出量削減方法を考える。GXリーグやSBT認証など今後の取組についても考える
主な内容	自社においてどのような分野でどれくらいCO ₂ 算出量が削減できるかを考えます。 また、GXリーグへの加盟やSBT認証の取得など今後の活動も考えます。
アジェンダ案	<ul style="list-style-type: none">① はじめに② 【ワーク】CO₂排出量削減の方法を考える③ GXリーグ／SBTなど国際認証取得のすすめ④ 社内人材育成法⑤ まとめ

CO2排出量削減の方法をワークにて考えます

- CO2排出量削減の主な3つの方針にしたがって削減ターゲットと方針を策定します
3つの削減方針

- ① 可能な限り、エネルギー消費量を削減する（省エネを進める）
- ② エネルギーの低炭素化を進める
- ③ 電化を促進する（熱より電力の方が低炭素化しやすいため）



削減目標が決まったら、削減方針と手段を策定しましょう

GXリーグ未対応における経営上のリスク

企業にとっての経営上のリスク



商品の**売上減少**リスク

エシカルではない商品が売れなくなる

企業も個人も商品を購入する際の選定の基準として、「エシカルかどうか」も含まれる時代

取引先減少リスク

CO2排出量削減効果がある商品を購入したい取引先から自社商品を購入してもらえなくなる

従業員離れリスク

削減の取り組みにより従業員のモチベーションを維持
新入社員の就職先選択の際にエシカルな取り組みをしている企業かどうかも基準に含まれる時代

GXリーグ対応を実施することで、将来的な経営リスクを減らすことが可能です